

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 身体表面変形デバイスを用いた自他非分離な間身体性の設計

2. 個人研究者名

堀江 新（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 特任助教）

3. 事後評価結果

本研究では、身体表面に装着可能なハードウェアを開発し、これを用いて身体表面を変形させることで、他者に見せるための身体の視覚的なシルエットの変化および装着者への触覚提示を同時に行い、自他が相互に影響する「間身体性」を発現させることを目指した。試作したハードウェアを用いて、自他の身体表面をどのように変形させることが、一体感や共鳴を始めとした自他を含み合う間身体性を生み出すかを調査した。装着者の筋活動を推定し、他者に触覚で運動を伝えるシステムにおいて、Rotational Skin Stretch と Force Myography を組み合わせることによって刺激の出力と運動強度のセンシングを両立できていることは評価できる。衣服に着眼した独自性が面白く、それをデモンストレーションで示すことで実用化の現実感をアピールできた。開発したデバイスが本研究期間内で順次アップデートされるなど、ハードウェア開発における創意工夫が見られ、今後の研究開発の発展が大いに期待される。

本技術を用いて各ユーザーの主体性を奪うことなく共創的關係を形作れると考えられることから、強制することなく有機的に手がかりが与えられるゆるやかな体性感覚的つながりを通じて、表現だけではなく、リハビリテーションやトレーニング、教育への応用展開が期待できる。視触覚デバイスの新規性も認められ、21_21 DESIGN SIGHT の企画展「未来のかけら：科学とデザインの実験室」で展示を行うなど、注目も高い。本研究領域内での研究成果も認められ、大学院修了・学位を取得し、現研究実施機関に特任助教として着任したことから、研究を加速・発展させる基盤を固めることができたといえる。